

RACE REPORT



**SUPER
FORMULA**

Round.02 **AUTOPOLIS**

第2戦 オートポリス

2024 年5月 19 日 (日)

決勝

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

決勝：6 位

#39 大湯 都史樹

決勝：15 位

5 月 18 日 (土) に行われた公式予選では阪口晴南が 4 番手、さらに大湯都史樹も復調の兆しをみせ 11 番手と、上位を狙える位置につけた VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING。決勝レースでの好結果を目指すチームは、5 月 19 日 (日) の決勝日に臨んだ。

このオートポリスは、国内のサーキットのなかでも最もタイヤに厳しいと言われる難コース。41 周の長丁場のレースで、いかにペースを高く保つか、そしていかにスタートを決めるかが重要となる。午後 2 時 50 分からの決勝レースに向け、チームは午前 10 時からのフリー走行に臨んだ。

PRACTICE フリー走行

5 月 19 日 (日) 10:00 ~ 10:30 天候：晴れ 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'31.109 / #39 大湯都史樹 1'31.992

決勝日のオートポリスは、やや雲が多いものの前日に続き晴天に恵まれた。ただこの日は風が強く、メインストレートでは向かい風となっていた。

そんななか、午前 10 時から始まったフリー走行では、開始と同時に阪口、大湯ともにコースイン。すぐにピットに戻り再コースインすると、まず阪口が 2 周目に 1 分 31 秒 109 というベストタイムをマーク。続いて大湯も 3 周目に 1 分 31 秒 992 を記録し。そのまま 2 台は燃料を積んだ状態でロングランに入り、決勝に向けたセットアップを確認していった。

ただ開始から 14 分が過ぎたころ、#50 木村偉織がクラッシュ。セッションは一時赤旗中断となった。またチェッカー時にも #12 三宅淳詞がクラッシュを喫したが、こちらは走行終了ということもあり、赤旗が出ることはなくチェッカーを迎えている。

VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING の 2 台は、赤旗再開後もラップを重ねていき、阪口は 12 周を走りフリー走行は 9 番手で終えた。

「第 1 戦の反省を踏まえ、レースでの精度を上げるべくセットアップを行っていきました」という阪口だったが、「足り

なかった」と順位が示すとおり、あとわずかな速さが欲しいところだった。

一方 12 周を走った大湯もややペースに苦しむ状況で、こちらも決勝レースに向けた改善が必要と言えた。

オートポリスは路面コンディションの変化も大きいことで知られており、サポートレースの走行によっても変化する。インターバルの状況や気温の変化などを加味しながら、VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING はレースに向けて 2 台のセットアップを進めていった。



RACE

決勝レース

5月19日(日) 14:50~15:57 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'31.525 (14L) / #39 大湯都史樹 1'31.987 (29L)

8,900 人の来場者が見守るなか、迎えた午後2時50分からの決勝レース。気温24度/路面温度38度というコンディションのもと、1周のフォーメーションラップを経て決勝レースの火ぶたが切って落とされた。

例年、スタート直後にはアクシデントも多く発生するオートポリスでのレースだが、今回はクラッシュ等はなくオーブンラップが進んでいく。阪口は4番手から好感触でスタートを切り、予選順位のままトップ3を追っていった。フリー走行で得たフィードバックとともに変更したセットアップの感触も良好だったが、トップ3が速い。阪口は持てるポテンシャルをフルに活かし、上位に食らいついていった。一方の大湯も好発進を決め、序盤は9番手につけていく。

このレースで重要になるのはレースペース、そして戦略だ。チームはタイヤのグリップダウン、トラックポジションなどを検討しながらピットインのタイミングを探っていく。作業を終えコースに戻った際に、遅い車両に引っかかってしまう恐れもあり、エンジニアたちは慎重にタイミングを見定めた。

まず12周目にピットインを行ったのは阪口。チームは迅速に作業を進めるが、右リヤタイヤに時間がかかってしまう。コースに復帰すると、先にピットインしていた#6 太田格之進に先行を許してしまった。一方、大湯はレース後半にピットインする作戦をチョイス。フリー走行からセットアップは改善されており、大湯は安定したペースでラップを重ね、終盤ニュータイヤで追い上げる作戦を採った。

ただ26周を終え、走行全車のうち最も遅くピットインした大湯だったが、ここでまたも左リヤの作業にミスが出てしまいタイムロスをおこしてしまう。コースに復帰してみると、大湯の順位は16番手。序盤ポイント圏内を走っていただけに、痛恨のポジションダウンとなってしまった。

序盤にピットインしていた阪口は、レース後半に向けてもタイムの落ちは少なく、セットアップの良さを感じさせるレースとなっていたが、それでも今回上位に食い込んだライバルたちに比べると、わずかに速さが足りない状況だった。阪口は#6 太田を追いながら戦い続けたが、終わってみれば6位でフィニッシュすることになった。

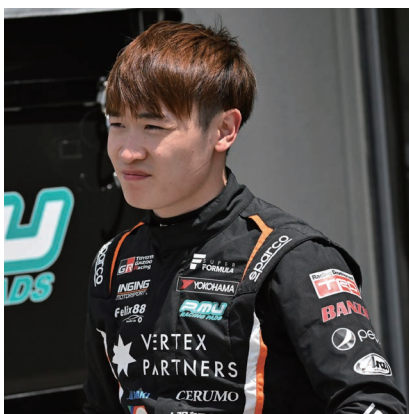
ピットアウト後、ニュータイヤでひとつでも順位の挽回を図りたい大湯だったが、10番手以下の集団に抑え込まれてしまう。特に今回スポット参戦だった#19 ベン・バーニ

コートとの攻防では、大湯は何度も行く手を阻まれ、ファイナルラップにコースアウトを喫するほど。それでもダメージなくコースに戻った大湯は、15位でチェッカーを受けた。

2台ともにレースペースは悪いものではなく、十分ポイント圏内を見据えるものだったが、ピット作業がふたりの足を引っ張ることになってしまった。チームは次戦以降ふたりの手を助けるべく反省し、6月のSUGOでのレースに臨む。

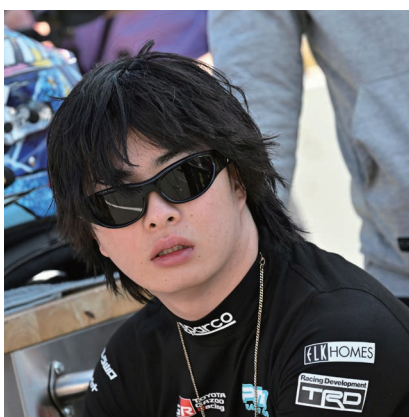


COMMENTS ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「フリー走行ではポテンシャルが足りない印象があったので、攻めたセットアップをしたのですが、レースでは今週いちばんの感触を得ることができました。スタートも決まり、ポジションを守って走ることができ、実際レースのフィーリングも悪くなかったのですが、トップ3はさらに一段上のペースで走っていたので、さらに上げる必要を感じましたね。戦略は悪くはありませんでしたが、ピットでミスもあって。自分が止まる位置など、しっかり原因を見つけなければいけませんね。レース後半のペースも悪くなかったなので、前進していることは感じましたが、ここをベースとして、次戦 SUGO ではトップグループに追いつけるよう、さらに上を目指したいと思います」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「スタートはうまくいきレース後半までピットインを引っ張る作戦を採りました。その作戦自体は悪くなかったと思いますが、ピットでロスが出てしまいました。終盤に追いつけなかったのですが、バーニコート選手に何度も阻まれてしまって。とはいえ結果的に15位となってしまいました。朝のフリー走行のことを考えると、決して良いわけではありませんが、ますますのポテンシャルがあったと思っています。ただ予選での課題が解決しているわけではありませんし、決勝でのペースも中団で走っていたかな……というくらいです。次戦 SUGO は得意なわけではありませんが、成績が出ているコースなので、しっかりと改善し、準備をして臨みたいと思います」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「阪口選手についてはレースウィークを通じてフィーリングも良好でしたが、決勝では上位の数台に比べるとペースはまだもうひとつ足りていませんでしたね。次戦に向けて、ロングランのペースを上げなければいけませんので、その点は頑張らなければと思います。一方大湯選手については、パフォーマンスを出し切れない苦しい戦いのなか、頑張ってラップを重ねてくれていましたが、ピットでロスが出てしまいました。ふたりともピットでミスが出てしまったので、チームとして情けなく感じていますし、ドライバーに申し訳なく思っています。次戦に向けて、しっかりとチームとして強化しなければいけないと感じています。応援ありがとうございました」



RACE REPORT

RESULT

リザルト

第2戦オートポリス 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:03'37.202	
2	15	岩佐歩夢	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:03'42.767	5.565
3	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:03'46.180	8.978
4	64	山本尚貴	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:04'03.014	25.812
5	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:04'03.513	26.311
6	38	阪口晴南	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:04'05.587	28.385
7	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:04'06.587	29.385
8	8	福住仁嶺	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:04'07.243	30.041
9	16	野尻智紀	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:04'07.488	30.286
10	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:04'08.621	31.419
11	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:04'11.398	34.196
12	37	笹原右京	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:04'16.816	39.613
13	19	B. パーニコート	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:04'18.985	41.783
14	50	木村偉織	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:04'20.507	43.305
15	39	大湯都史樹	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:04'21.109	43.907
16	55	松下信治	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:04'47.124	1'09.922
17	12	三宅淳詞	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:04'57.330	1'20.128
18	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	1:05'10.237	1'33.034
19	20	国本雄資	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	40	1:03'12.509	1Lap
20	53	Juju	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	40	1:04'29.089	1Lap
以上完走							
—	65	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING	HONDA/M-TEC HR-417E	11	17'25.678	30Laps

ドライバーランキング

Rank.	No.	Driver	Total
1	5	牧野任祐	23
2	16	野尻智紀	23
3	15	岩佐歩夢	20
4	64	山本尚貴	20
5	3	山下健太	19
6	6	太田格之進	16
7	38	阪口晴南	12
8	36	坪井翔	11
9	8	福住仁嶺	8
10	65	佐藤蓮	6
11	55	松下信治	3
—	39	大湯都史樹	

チームランキング

Rank.	Team	Total
1	TEAM MUGEN	39
2	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	35
3	PONOS NAKAJIMA RACING	25
4	KONDO RACING	19
5	VANTELIN TEAM TOM'S	11
6	Kids com Team KCMG	9
7	VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	9
8	TGM Grand Prix	3